

◆ 目黒区 ◆

中小企業の景況

平成23年度第3四半期
(平成23年10~12月)



目黒区産業経済部産業経済課

目 次

1. 都内中小企業の景況	1
2. 目黒区内中小企業の景況（平成 23 年 10 月～12 月期）	2
(1) 今期の特徴点	2
(2) 今期の景況と来期の見通し	5
製造業	5
卸売業	9
小売業	12
サービス業	15
建設業	18
(3) 調査員のコメント	21
3. 日銀短観／東京都と目黒区の企業倒産動向（平成 23 年 12 月）	24
4. 特別調査「平成 24 年の経営見通し」について	27
5. 中小企業景況調査 比較表・転記表	29

調査の概要

1. 調査時期 平成 23 年 10 月～12 月期（四半期毎実施）
2. 調査方法 面接聴取調査
3. 調査の対象と回収状況

	調査対象事業所数	有効回答事業所数
製 造 業	100	97
卸 売 業	29	28
小 売 業	45	45
サ ー ビ ス 業	45	45
建 設 業	42	39
合 計	261	254

調査実施機関 社団法人東京都信用金庫協会

分析実施機関 株式会社東京商工リサーチ

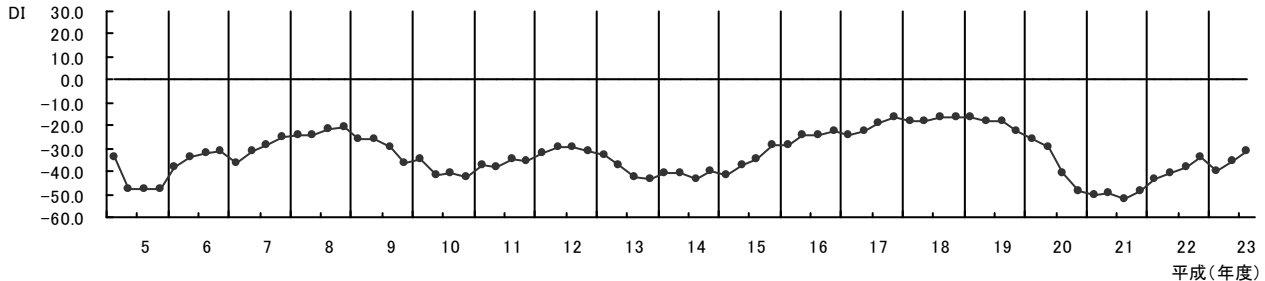
1. 都内中小企業の景況（平成23年10～12月期）

（社団法人 東京都信用金庫協会調べ）

業況、前期に引続き上向く

～来期も改善を期待～

都内中小企業景況・6業種合計 DI



業況判断DI（季節調整済、「良い」企業割合－「悪い」企業割合）は△31.3（前期は△35.9）と前期に比べ4.6ポイント改善した。業種別に見ると、全業種とも改善した。来期は、全業種が水面下ながら厳しさが和らぐと予想している。

	前 期	今 期	増 減	今期予想	来期予想
製 造 業	△ 33.7	△ 30.5	3.2	△ 32.8	△ 25.9
卸 売 業	△ 36.4	△ 28.1	8.3	△ 30.6	△ 23.1
小 売 業	△ 44.4	△ 40.5	3.9	△ 43.0	△ 37.3
サ ー ビ ス	△ 37.2	△ 32.7	4.5	△ 32.6	△ 28.4
建 設 業	△ 25.9	△ 21.7	4.2	△ 24.3	△ 16.0
不 動 産 業	△ 25.8	△ 19.2	6.6	△ 24.0	△ 15.3
総 合	△ 35.9	△ 31.3	4.6		

<製造業>

業況は水面下ながらわずかに厳しさが和らいだ。売上額・受注残・収益はともに減少幅・減益幅が幾分縮小した。価格面では、原材料価格は前期並の上昇が続き、販売価格は前期同様の低下基調で推移している。

業種別に見ると、「建設用金属」「木材・家具」「一般機械」「紙・紙加工品」は水面下ながら大幅に厳しさが和らぎ、「プラスチック」「ゴム製品」「金属製品」「繊維・衣服」はわずかに悪化幅が縮小した。一方、「化学工業」は大きく悪化幅が拡大し、「電気機械」は幾分厳しさが増した。来期の業況は、引続き厳しさが和らぐものと予想している。売上額・受注残・収益はともに減少幅・減益幅が縮小するものとみている。

<卸売業>

業況は、水面下ながら大幅に改善した。売上額・収益はともに大きく減少幅・減益幅を縮小した。価格面では、販売価格はやや持ち直し、仕入価格は前期並の上昇が続いている。

業種別では、「鉱物・金属材料」「建築材料」「繊維・衣服」「家具・建具」「食品・飲料食品」が水面下ながら大きく上向いている。

来期は、業況は厳しさが和らぎ、売上額・収益はともに持ち直すかと予想している。

<小売業>

業況は、水面下ながらわずかに厳しさが和らいだ。売上額・収益はともに幾分減少幅・減益幅が縮小している。価格面では、販売価格はやや厳しさが和らぎ、仕入価格は変動なく推移している。

業種別では、「医薬品・化粧品」「スポーツ用品・玩具」「書籍・文房具」「家具・建具・じゅう器」「飲食店」「カメラ、時計・眼鏡」が水面下ながら大きく上向いた。一方、前期に大きく持ち直した「木材・建築材料」は極端に悪化傾向が強まった。

来期は、業況は上向き、売上額・収益はともに減少幅・減益幅が縮小すると予想している。

<サービス業>

業況は、水面下ながらやや持ち直した。売上額・収益ともにわずかに減少幅・減益幅が縮小した。価格面では、料金価格は前期並の下降が続き、材料価格は幾分上昇が弱まった。

業種別に見ると、「情報サービス・調査・広告」は水面下ながら大きく改善し、「自動車整備・駐車場」は若干厳しさが和らいだ。

来期の業況は、水面下ながら厳しさが和らぐものと予想している。売上額・収益については、減少幅・減益幅が縮小するものとみている。

<建設業>

業況は、若干厳しさが和らいだ。売上額・受注残・施工高は、いずれも大きく減少幅・減益幅が縮小している。収益は、やや持ち直した。価格面では、請負価格は下降傾向が大きく改善し、材料価格はやや上昇が弱まった。

業種別に見ると、「職別工事」は多少厳しさが和らぎ、「総合工事」は水面下ながら大幅に改善した。「設備工事」はやや悪化幅が拡大した。

来期は、業況は厳しいながらも上向くと予想している。売上額・受注残・施工高・収益は持ち直すかとみている。

<不動産業>

業況は水面下ながら大きく改善した。売上額は減少幅が若干縮小し、収益は前期同様の減少幅で推移した。価格面では、仕入価格は下降傾向をやや強め、販売価格は前期同様の低下基調で推移した。

業種別に見ると、「建売・土地売買」「不動産代理・仲介」とともに水面下ながら大幅に改善した。

来期の業況は、水面下ながら厳しさが和らぐと予想している。売上額・収益は減少幅・減益幅が縮小するものとみている。

[注]

○D.I (Diffusion Index の略)

D.I (ディーアイ) は、増加 (又は「上昇」「楽」など) したと答えた企業割合から、減少 (又は「下降」「苦しい」など) したと答えた企業割合を差引いた数値のことで、不変部分を除いて増加したとする企業と減少したとする企業のどちらかの力が強いかを比べて時系列的に傾向をみようとするものです。

○ (季節調整済) D.I

季節調整とは、各期ごとに季節的な変動を繰り返すD.Iを過去5年間まで遡って季節的な変動を除去して加工したD.I値です。修正値ともいいます。

○傾向値

傾向値とは、季節変動の大きな業種 (例えば小売業) ほど有効で、過去の推移を一層なめらかにして景気の方角をみる方法です。